



「中期的な計画の作成にあたっての意見」

原村長 清水



・重点化を進める上で特に優先度の高い政策

原村の主要な道路は県道であり、集落間を結び他市町への連絡網となっています。村道は、これらを接続する形で配置され、ほ場整備事業が概ね完了したこともあり、道路網として整備されてきています。

諏訪南インターからの交通の流れは、中央高原方面へはズームラインが、蓼科・白樺湖方面へはエコーラインが整備され、集落内通過車両は減少するものと思われま。その一方で、企業の中央道沿線への進出により、茅野市方面からの通勤車両が増加しています。

交通量は、依然増加傾向にあり、歩行者にとって不安が増大しています。歩道の整備は、通学路を中心に鋭意整備が進められていますが、集落内には未整備箇所が残されています。これら未整備箇所への【歩道設置】や集落内の通勤車両を減少させるための【バイパスの設置】など、人にやさしい道路・ネットワークの整備をさらに進めていく必要があります。

・効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

今後の道路政策において、コストを減らし無駄を併する為に、下記のことが必要と考えます。

- 事業の開始前や途中段階で必要性をチェックするなど、事業ごとの評価を徹底する。
- 道路の建設や管理にかかるコストをもっと減らす努力をする。
- 現在ある道路をもっと有効に利用する（高速道路料金の引き下げ、インターチェンジの増設等）。

・その他

原村では、身近な道路等を住民自ら整備・補修及び環境維持に関し、長野県及び原村が建設資材、建設機械燃料等の支給により地域で施行、維持作業を共同作業で行うことにより地域の連帯を図り、住民参加型の村づくりを進めることを目的とした、原村建設資材支給・環境維持事業を平成15年4月1日より、実施している。